

は じ め に

情報処理センター所長 市川良哉

昭和63年4月に開所されました情報処理センターは本年度4年目になります。この間、情報処理センターのホストコンピュータ（NEC ACOS 430/70）は文化系の比較的に小規模な大学としては大いに研究・教育に利用されてきました。

因に、昨年度の利用実績は処理したジョブ件数が11,481件、これに要した時間が8,682時間でした。また、端末機の利用件数が10,329件、これに要した時間が7,353時間でした。CPUの負荷率は89.2%に達しています。本年度はACOSの利用率が引き続き増加し、特にCPUの負荷率は更に高くなっています。

来年度は、新しい機種を導入が予定されています。情報処理センターでは、本年度に入りましてからそうした事情を踏まえて、機種選定委員会を設置して現有の機種も含めて研究・教育に充分に対応出来るような新機種のコンピュータシステムをつくるために、熱心に鋭意検討されています。その目的は、本学における学術研究を一層推進するために、大型計算機センターのN1ネットワークへ参画し、研究・教育の計算機需要の増大に対処して高速で大容量の処理を行い、学内における高度情報処理支援システムをつくることにあります。

また、本年度の私立大学研究設備費等補助金を受けまして、SS-NET（教育研究支援統合型ネットワークシステム）が整備されました。これによって学内に共通の高度で柔軟なネットワーク環境が構築され、情報資源の共有化、学内のインテリジェント化、コミュニケーションの一層の円滑化などが行われることとなります。

同じく補助金を受けまして、携帯型パソコン（NEC PC-9801NV）を500台購入し、内372台を学生諸君に貸出しています。これを利用する学生は多く、教育活動に側面から大いに役立っています。

このほか「センターニュース」を発行したり、学生・教職員を対象にして講習会を開催したり、また、プログラム相談室を開くなど利用者の便宜をはかっております。来年度は情報処理センターの施設が増設されて拡充されることとなります。「情報処理センター年報」第2号発行にあたり、情報化社会に対応する研究・教育の共同利用施設として、情報処理センターの役割をはたすことが出来るように、更に努力していきたいことを申し添えまして、学内外のご協力をお願いいたします。